

答

全国的なオーガニック給食の取組としては、無農薬・有機肥料米や低農薬米、特別栽培米を指定生産者より購入する事例、パンや麺には国産小麦を使用する事例、生産地や加工地の履歴が確認できる肉や魚を食品選定委員会において決定する事例、市内産の野菜・果物を優先する事例など、食材の選定方針を設けている自治体があるが、これらはごく一部に限られた取組であると認識している。

本市の米飯給食の実施については、安全で安心な給食、地産地消の観点から西条産米を使用しているが、学校給食における減農薬米や有機食材などの使用には、地元産有機食材の生産量や価格、流通面の課題が多く、現在のところ調達が困難な状況にあることから、使用はしていない。

今後のオーガニック給食の展開については、本市が目指す持続可能で安全・安心な学校給食体制の確立に向けて、食育推進や地産地消のしくみづくりが重要であることから、給食食材への有機農産物の導入や、地元西条産小麦による

学校給食用のパンの供給なども研究課題の一つであると考えている。

また、本市では西条市学校給食基本方針に沿って、安全・安心な学校給食を提供するため、学校給食衛生管理基準に基づいた施設整備や献立作成を行うとともに、食育推進や地産地消に取り組むこととしており、令和7年9月に稼働を予定している（仮称）東部給食センターの整備・運営について検討を進める中で、食育推進や地産地消についても専門部会などで検討を進めることとしている。



安全・安心な学校給食のため地産地消の推進を

藤井武彦議員



- 1 農業振興について
- 2 高校生の市政参画について

総合6次産業都市

更なる推進を！

問

総合6次産業化を目指すため、これまでどのように取り組む、その成果をどのように考えているのか。

また、総合6次産業都市の中心を担ってきた株式会社サンライズファーム西条及び株式会社サンライズ西条加工センターが令和4年9月末日をもって事業撤退することになるが、撤退に伴う影響をどのように考えているのか。

更に、第2期西条市総合計画後期基本計画では、1千万円以上販売する農家の増加を目標に掲げているが、今後、

目標達成に向けてどのように取り組んでいくのか。

答

総合6次産業都市の取組の中で、株式会社サンライズファーム西条と株式会社サンライズ西条加工センターがそれぞれ設立され、実証した事業には、GPS精度の実証試験や電子百葉箱がある。成果としては、作業工程の中でのデータの見える化や、活用が難しい技術の発見があり、課題解決の道筋が示されたと考えている。

撤退に伴う影響として、JAえひめ未来では、令和3年度に株式会社サンライズ西条加工センターにタマネギを出荷しており、今後その契約先を失うことになるが、現在作付けしているタマネギについては受け入れるとのことであり、影響は最小限にとどまるものと考えている。また、現在、株式会社サンライズファーム西条が借りている農地の契約は、令和4年9月以降の解約が見込まれるが、出資する住友化学株式会社としても土地所有者の負担軽減に資するよう、関係機関と相談・検



株式会社サンライズ西条加工センターでの加工作業の様子

討していくとのことである。

1千万円以上販売する農家の増加目標達成に向けた取組として、令和6年度までに126件とする目標を掲げており、令和2年度時点で121件と順調に推移している。今回の2社の撤退により、少なからず影響はあるものと考えているが、今後はあらゆる農業関係の企業誘致を進め、取り引き先の確保に向けて取り組みたい。

農業は本市の基幹産業であるため、総合6次産業都市の取組は継続し、将来にわたって持続可能な農業、稼ぐ農業の実現を目指したい。